

# 浅草寺病院だより

2021年  
【冬号】

2021年1月10日発行  
社会福祉法人浅草寺病院  
東京都台東区浅草2-30-17  
☎ 03-3841-3330

## 理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、  
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



## 新年のご挨拶

病院長 黒田 忠英

あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、今年一年新たな気持ちでスタートしたいものです。昨年末からは新型コロナウイルス感染症の蔓延がさらに拡大し第3波が到来、医療体制も非常に逼迫した状況となっております。皆様も非常に厳しい日々を送られていることと思いますが、我々ができることは感染予防策を徹底しながら、まずは自分自身を守り、感染しない、感染を広げないということに注意しながら日々の生活を送っていくことが重要かと思えます。このような大流行は、我々が初めて遭遇するものであり、その対処法、治療法もまだまだ未知数なことも多くあります。病院としても感染防止のための予防対策、発熱者の動線分離など様々な感染対策を行いながら、通常診療を行っております。本年も引き続き、感染対策を十分に徹底したうえで、患者様の受け入れを行ってまいります。

以下に、当院の外来診療・入院診療・病診連携検査に関して、ご案内させていただきます。

### ・外来診療

内科、小児科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科を設置し、現在水曜、木曜は夜8時まで夕方診療(内科)も行っております。日中の内科外来は、一般内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、血液内科の診療も行っております。

### ・入院診療

令和2年(2020年)9月より、地域包括ケア病床を設置いたしました。一般急性期病床(60床)、療養病床(60床)での運用を行なっておりましたが、一般病床の一部(24床)を地域包括ケア病床へと転換し、地域に根ざした病院として多くの患者様を在宅へお返しできるような体制を整えました。高度急性期、急性期病院から患者様を受け入れ、スムーズに地域の診療所の先生に移行して行けるように、リハビリや介護サービスの導入など、在宅復帰に向けた調整を行っております。急性期から回復期(地域包括ケア)、そして慢性期の長期療養まで地域の患者様のお役に立てればと思っております。また、介護者の負担軽減のためのレスパイト入院も受け入れております。

### ・病診連携検査

CT、MRI(1.5T)、その他、腹部、心臓超音波検査、上部下部内視鏡検査などを、病診連携での検査のご依頼を受け付けております。診療所の外来診療や在宅訪問診療時または施設入所中の患者様など必要な検査がございましたら、ご紹介いただけましたら幸いです。CT、MRIなどの検査画像は当日すぐに先生方にご確認いただけるよう、CD-Rにて直接患者様にお渡しさせていただきます。また、平日であれば翌日には読影結果も発送させていただきます。当院の医療福祉相談・連携室までお問い合わせください。フォーマットは病院ホームページにも掲載しております。

今後も引き続き台東区の地域医療の一翼を担えればと思っております。本年もよろしく願い申し上げます。

新型コロナ・ワクチンの接種が米国では 2020 年 12 月 14 日から、欧州連合(EU)のドイツやハンガリーでは 12 月 26 日から始まりました。まずは米ファイザー社(独ビオンテック社との共同開発)と米モデルナ社により製造されたワクチンが接種されていますが、今後は他社からの製品も増えてくると考えられます。新型コロナウイルス感染症が世界で顕著に目立ってきてからまだ一年も経っていないのに、なぜこんなに早くワクチンが完成したのでしょうか。しかも、両者とも 95%程度の予防効果があるとの驚愕の臨床試験結果となっています。世界中でますます感染が進む中、これらワクチンの効果に大きな期待が寄せられています。

従来の不活化ワクチン等は、実際に感染症の原因となっているウイルスを研究者が入手してからでないと製造過程を始めることができなかつたために、完成には 5~10 年を要しました。しかし、今回開発された新型コロナ・ワクチンは mRNA ワクチンと呼ばれるもので、インターネット等を通じてウイルスの遺伝情報(塩基配列)さえ入手できれば製造ができるため、スピーディに開発をすることができました。原理的には、抗原タンパク質の塩基配列を作る情報を持った mRNA を体に投与することにより、細胞内で mRNA が翻訳され抗原タンパク質ができ、その結果免疫メカニズムが作動させられるというものです。元々はがんや他の感染症の治療目的で研究が進められてきた手法でしたが、新型コロナウイルス感染症が急速に人類を脅かすようになったため、その技術は新型コロナ・ワクチン開発へ方向替えとなりました。新しい技術であるため、今回の感染症が数年前であったら、これだけ迅速なワクチン開発はできなかったのではとも言われています。

今回は字数の制限があり副反応については詳しく書けませんが、世界で接種者数が増えてくるに従い具体的な姿が見えてくると思います。厳格な観察と対応が必要です。しかし総合的にはワクチン接種による個人的・社会的な利益は損失を大きく上回ると考えられています。新型コロナウイルス感染症の克服への大きな一歩になってほしいものです。

## 謹賀新年

総務課

あけましておめでとうございます。輝ける新年を迎え、心からお慶び申し上げます。

令和元年12月以降、中華人民共和国湖北省武漢市において発生したとされる新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大による未曾有の只中にあります。

現在、感染拡大が依然として収まらない状況にある中、私たちの日常は様々な制約に晒され、我が国の経済も苦境に喘ぎ、さらに大学病院や中小の病院、診療所に至るまで「医療崩壊」という四文字が忍び寄り現実味を帯びてきた感があります。

こうした状況下にあっても、私たちは患者さまやそのご家族、また病院で働く職員の身の安全を考え安全・安心を第一に、様々な緊急措置に取り組んでいます。具体的には、職員から患者さまへの院内感染を防止するために、日常的に以下のような厳重な感染予防対策を実施しています。

- ① 手指衛生や個人防護具の着脱を適切なタイミングと方法で行うよう指導し実践しています。
- ② 院内で就業している全ての職員に対して、毎日、発熱、咳などの風邪症状の有無を確認し、部門管理者が確認しています。

これらの対策を徹底し、患者さまが来院しやすい環境を整備するとともに、院内感染の予防に努めて参りますが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今後、市中で感染する可能性は否定できません。万一、感染が判明した場合は、ガイドラインに沿って濃厚接触者の就業停止や環境の消毒などの適切な措置を実施し院内感染の発生予防に努めます。ただし上記のような緊急措置を行う場合であっても、当院は地域医療の担い手として通常の医療を提供する重要な役割がありますので、保健所など行政との連携を図りながら、充分な感染予防対策を講じた上、診療を行ってまいります。

新型コロナウイルス感染拡大は未だ予断を許さない状況にあり、当院を来院される方々にはご不便やご心配をお掛けする状況が続いていますが、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務職が一体となり、それぞれの立場で今できることを共に取り組むべきと考えています。当院の取り組みについて、ご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、当院のみならず世界全体が本来の姿を取り戻す日が一日も早く訪れることを願ってやみません。